



獲得めでとう!!
COTYは

特別賞はインプレッサに!



スバルにとって初の「特別賞」受賞車となったインプレッサ。

インポートCOTYに輝いた
メルセデスベンツCクラス



441点を獲得してインポートCOTYの座に輝いたベンツCクラス。

結果 91年の「スポーツ」、95年の「ミラクル」に続き、シビックが3代連続してCOTYの栄冠を勝ち取った。

99/2000年のCOTY最終選考会に比べて今回は約2週間も早い11月15日に開催されたため、当日の段階ではRJCの受賞車は未定だった。いつもなら隣の庭の内がわかってから投票している選考委員にとっても、今回に限っては「あっちのノミネート車は何だっけ?」と気にとめながら投票せざるを得ない状況となった。

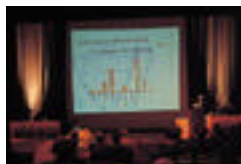
今年のカー・オブ・ザ・イヤー(COTY)もトヨタVSホンダの一騎打ちとなった。ここ最近、波に乗っているこの2社がまたまた熱い戦いを繰り広げ、ノリについていけない他社が蚊帳の外に追いやられた感もあった。じっさい、選考会2日目の試乗会場を見渡しても、トヨタとホンダの広報車は頻繁にピットを出ていった反面、ほとんどクルマが稼働していないメーカーもあった。

「2週間早いと暖かいね」
11月15日 最終選考会開催

試乗を終えて投票会場に集まった選考委員。委員は全員で54名だ。



各選考委員の投票結果が横断され、開票会場でCOTYが決定。



た。まさにトヨタの4年連続受賞に歯止めをかけるカタチとなった。10ベストとは無関係に投票された特別賞にはインプレッサが選ばれ、走り好きな先生方の本性が現れたと言っても過言ではないだろう。じつは、スバルにとってはこれが初の特別賞となったのだ。また、COTYを辞退した三菱のランサーセディアや、プリウスMCに投票した選考委員もいた。

こうして幕を閉じた20世紀最後のCOTYだが、ホンダにその座を奪われたトヨタにとっては念入りな作戦が失敗に終わった、なんとも皮肉な結果となった。詳しくは113ページを参照いただきたい。